

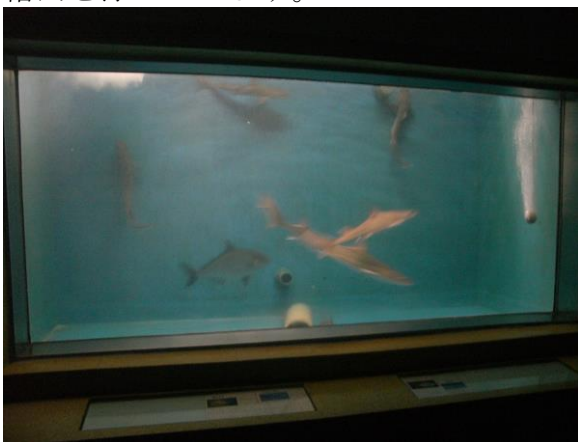


東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所
<http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

サメ類の展示



八丈事業所では、八丈島周辺の海に生息している魚類の水槽展示を行っています。昨年末から5つある水槽のうちの1つでサメの展示を始めました。サメは、昨年末に、当事業所の職員が底土港で釣獲したもので、現在、フトツノザメ4尾(約40~50cm)とホシザメ1尾(約70~80cm)が水槽内を泳いでいます。



【写真1】サメを展示している水槽

【サメの種類】

フトツノザメ(写真2上)は「ツノザメ」という名の由来どおり背鰭の前の部分にツノのように見える棘(写真2下)があるのが特徴です。深海性のサメで西太平洋、オーストラリア、インド洋などに分布し、生息する水深は100~500mぐらいです。八丈島ではC型流路*のときに浅場に上がってくるようです。静岡県沼津港深海水族館や茨城県の大洗アクアワールドでも展示されています。

ホシザメ(写真3上)は背中に白い斑点があるのが特徴です(写真3下)。日本、朝鮮半島、中国、ベトナムに分布し、沿岸の砂泥域に生息するサメです。いずれも、人を襲うことはなく、主にカニなどの無脊椎生物を食べています。また、サメ類の特徴の一つであるアンモニア臭が比較的に少ないため、肉は食品として利用され、フトツノザメはにぎり寿司のネタにもなります。



ツノ状の棘

【写真2】フトツノザメ(下は背鰭)



白い斑点

【写真3】ホシザメ(下は体表面)

【子ザメ誕生への期待】

フトツノザメ、ホシザメともに、卵胎生で、体内での妊娠期間を経て子ザメになって生まれてきます。今回展示しているサメはすべてメスなので、今後、子ザメを出産する可能性があります。ホシザメは4月ごろに子ザメを生むかもしれませんが。フトツノザメも4尾のうち2尾のおなかはかなり膨らんでいるので子ザメを生む可能性があります。

※ 八丈島が黒潮の内側に入り、低水温になる黒潮の流路の型